

私の履歴書

茅陽 一

㊹

告書づくりで筆頭著者の一人に名を連ねた。私はかつてIPCC発足に参加し、今もIPCCの国内連絡会の座長を務めている。

山口氏とは一緒に温暖化関係の論文を書いて海外の雑誌に出したり国内の新聞に投稿してみたりするのだが、とりわけ最近2人が共通して懸命に主張しているのが「ゼロエ

10月に発表されたIPCCの特別報告は、1.5度上昇が世界に与える影響と、1.5度達成への排出経路を示した。しかしそれをみる限り実現は容易ではない。

この問題に対する山口氏と私の共通の認識は、人類は温暖化目標ではなく、最終的にCO₂を排出しない「ゼロエミッション」を目指す行動目標を追求すべきだといつものだ。ゼロエミッションを実現すれば地球温度の上昇はやがて止まる。従って最終的に気温が何度であろうと、行動の方向を変えする必要はなく、精いっぱい

最近10年ほどの生活の中で圧倒的につきあいが多くなつたのは地球環境産業技術研究機構(RITE)の参与を務める山口光恒氏だ。

彼は環境経済学者で、東京海上火災保険(現在の東京海上日動火災保険)で役員待遇の理事まで務めた。その後、母校の慶応義塾大学の経済の教授に引き抜かれ、さらに東京大学先端科学技術研究センターの特任教授を経て、6年ほど前からRITEの参与である。

「ゼロエミッション」主張

CO₂を排出しないように

山口光恒氏

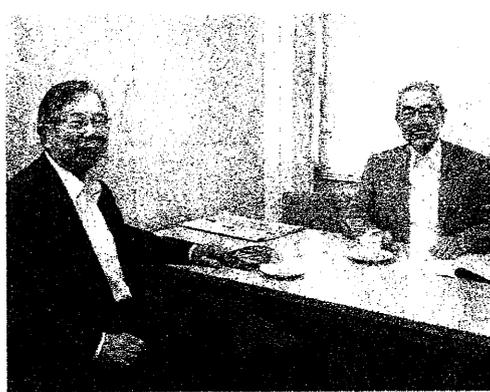
彼は環境経済学者で、東京海上火災保険(現在の東京海上日動火災保険)で役員待遇の理事まで務めた。その後、母校の慶応義塾大学の経済の教授に引き抜かれ、さらに東京大学先端科学技術研究センターの特任教授を経て、6年ほど前からRITEの参与である。

演奏家として活動している。私もかつてピアノを弾いたが、今ではもっぱらモーツァルトやマーラーのCDを聴くことが好きである。

しかし、より大事なものは2人とも地球温暖化対策について考えることが仕事の上の最大の関心事である点だ。

世界はこれまで地球の平均気温の上昇限度を一つの目標にあげてきた。2015年に採択されたパリ協定はその好例で、平均気温の上昇を産業革命前に比べて2度より「十分低く」抑え、1.5度以下に抑える努力をすることを目標に掲げた。世の中はこれを基本の目標は2度、努力目標を1.5度と解釈した。

そしてこの目標は政府であろうと企業や個人であろうと、行動する主体の別なく共通に適用できる目標である。これを目標として採用すれば世界のあらゆる者が同じ方向へ努力できる。この原則を世界に広めていくのが、現在の山口氏と私の共通の願いである。



と山口氏との話し合いの場面

私も彼も、普段の勤務場所は東京・虎ノ門にあるRITE東京事務所である。だから接触の多いのは当たり前だと思われるかもしれないが、た

で第3次から第5次までの報告を1.5度と解釈した。

基本の目標は2度、努力目標を1.5度と解釈した。

増加することになる。こう

(地球環境産業技術研究機構理事長)